

## 令和3年度釜石市青少年問題協議会 議事録

- 1 日時 令和4年2月28日(月) 10:45~12:00
- 2 場所 釜石市役所第4庁舎第7会議室
- 3 出席委員 13名  
遠藤幸徳委員、深澤秋子委員、福成菜穂子委員、中田テエ子委員、岩間千枝子委員  
菅野稔委員、新田佳世子委員、岩渕善吉委員、菊池哲彦委員、福田博委員  
前田剛委員(代理:釜石警察署生活安全課長 榎本貴徳氏)、菊池勝雄委員、  
野田武則委員
- 4 欠席委員 4名  
菊地裕委員、佐々木晴美委員、寺田恵美子委員、小野綾介委員  
市出席者  
少年センター専任少年委員 中川崇司  
子ども課長 千葉裕美子  
学校教育課長 佐々木誠  
まちづくり課 主幹 佐々木薫  
<事務局>  
保健福祉部長 小笠原勝弘  
地域福祉課長 村上徳子  
同主事補 及川海香
- 5 傍聴者 なし
- 6 結果

### (1) 副会長の互選について

事務局の一任により、教育委員会の福成菜穂子氏を選出。

### (2) 青少年の非行等の現状について 釜石警察署 生活安全課長 榎本貴徳 氏

非行少年総数は、令和2年は160人だったのに対し、令和3年は139人と21人減少している。この数は年々減少傾向にある。刑法犯少年だが、その割合で1番多いのは窃盗犯になる。この件数も年々減少傾向にある。犯罪少年は18歳以上のものでこちらも減少傾向にある。触法少年は、昨年に比べ7件の増加になっている。深夜徘徊等の不良行為少年は、非行少年同様に減少傾向にある。刑法犯検挙人員は県内の数値となるが、犯罪少年は減少、成人は増加となっている。刑法犯検挙人員の犯罪少年の占める割合は、5.8%となっている。昔は50%を占めていたのをみると本当に減ったと感じる。子供の数が減ったから、件数も減ったのではないかと思われるかもしれないが、実際に見ると率も減っている。日頃のボランティア等の方々の活動がこの減少につながっていると感じる。学識別にみると、学生生徒は102名となっている。内訳をみると、小学生35人、中学生31人、高校生31人、大学生3人、各種学校生2人となっている。

次に、初発型非行の件数についてみていく。これは、最初に手を染めやすい犯罪の件数をまとめたもの。万引き、オートバイ盗などがある。自転車盗が若干の増になっているが、全体の件をみると年々減少してきている。万引きに占める割合だが、小学生が1番多くなっている。

再犯・集団非行について、令和3年の再犯率は前年に比べると若干の増となっている。複数犯による検挙は年々減少している。

刑法犯少年罪種別の割合をみると、窃盗犯が半数を占めていることが分かる。学職別にみると小中高生の割合が多いことが分かる。

市町村別にみると、盛岡市や滝沢市等人口が多い町での検挙数が多くなっている。釜石市をみると3件となっていて、一見少ないようにもみえるが近隣市町村が1件となっているのをみるともう少し件数を減らしていかなければなど感じている。

特別法犯少年の検挙・補導状況をみると、青少年環境浄化条例、児童買春・ポルノ法での件数が多い。

不良行為少年の補導状況について、昔に比べるとものすごく減っている印象。ゲームであったりインターネットであったり青少年が外に出歩くことがなくなったのが背景に考えられる。そのなかでも、飲酒・喫煙の占める割合が多い。

警察署別検挙・補導状況について、釜石をみると5人で前年よりも増となっているが、集団で事件だったため、件数で見るとそれほど多くは無いという印象。

令和3年の特徴として、刑法犯少年は平成29年に若干の増があったものの、年々減少傾向にある。平成9年は1,758人だったのでそれに比べると非常に少なくなったという印象。平成15年に防犯ボランティアという制度ができ、いろいろな活動をしていただいているのが減少につながっていると感じた。警察だけではなく地域の方の見守りの力が大事だと感じている。再犯について令和3年はわずかに増加した。薬物乱用事犯について、平成29年から増加傾向にあり、このままでは危ないのではと感じていたが令和3年は1件まで抑えることができた。

#### 【質問等】

委員からの質問・意見はなかった。

次に、宮古児童相談所より「最近の相談内容について」講話をいただく予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で担当の方の出席が難しいとのことで、資料のみを配布し終了した。

#### (3) 意見交換

(深澤委員) 宮古児童相談所からは、資料のみの配付ということだが、今後出席が難しい場合は、オンラインでの講話等も検討してほしい。

(村上課長) 検討させていただく。

(菅野委員) 管内の小中高、県立高校を回らせていただいているが、釜石市の小学校、中学校の不登校の生徒の増加が気になる。令和3年度1月までのところ市内では小学生が19名、中学生が22名となっている。これは30日以上欠席となっている生徒の数。私が把握している数で市内の小学生は1,264名いるので出現率が1.5%。近隣の市町村で見ると大船渡市で0.97%、陸前高田市で0.31%、住田町2.65%と他地区と比べて高い数値に入っている。中学生をみると釜石市の出現率は3.4%。大船渡市で1.62%、陸前高田市で1.13%、住田町で5.17%と他地区と比べて中学生も少なくない。不登校生徒が増えている背景には、難しいことあった際に立ち向かえない、人間関係に加え、家庭の養育環境がなかなか整わない、子供しっかりとみてあげられない世帯が増えている実情がある。また、子供達のSNSの普及によるゲーム依存も関係していると考えられる。依存により昼夜逆転して学校に出席できないというケースもある。他地区で出た話の中では、深夜にネット上で友達と集合し、朝方までゲームをし学校に行けなくな

り不登校につながるケースがあった。榎本さんからお話があったとおり、青少年の非行が減ってきていると私も感じている。そのかわり件数は減少しているが、児相通告等の件数は増えてきている。子供の前での面前DVで警察に通報し、警察から児相の方に通告するケースが増えてきている。いじめの部分を見ると管内では58件と昨年に比べて横ばいとなっている。その中でも気になるのは、暴力行為で7件昨年に比べ6件の増となっている。対生徒や対教師のものもある。高校では、市内の高校では停学・退学で学校を離れている生徒の数は目立ったほどいない。しかし、休学で学校を離れている生徒がいる。3月で留年等が決まり退学や通信制への転校でかなり動きが出てくると考えられる。けしておだやかではない状況が小中高どこにでもあると感じている。

(福成委員) 虐待の問題があちこちで聞こえてきている。相談を受けたものは市をはじめ関係者の方々が一生懸命に対応していただいているのだが、見えていない部分に対して私達はどう対応していけばよいのか、また、ヤングケアラーの問題も出てきている。福祉の部分のケアでいいのか教育の部分のケアだけでいいのかお互いの情報交換ができる場が増えていけばいいと思う。問題にたどり着くまでの情報が薄いと感じている。年齢が下がってきているのもあるし、もっと真剣に考えていかなければならない。菅野委員のお話にあったとおり、30日以上休んでいる生徒も多いが、30日にはいかないが休んでいる生徒はもっといると考えられる。大きな問題になる前に話し合っていければと思う。

(菊池委員) どこまで関係機関の横のつながりを築けるかが問題を解決していくうえで、大切になってくると思う。子供は大人に初めて会った時に信頼できるかどうかを瞬時に感じ取ることができると思う。

(千葉課長) 虐待について、児相だけではなく市の方に通告があった場合は、子ども課で対応している。福成委員の話にもあったとおり、見えない部分が課題になってくる。大きな声で叱ったり、暴力を振るったりすることはしつけではありませんというのを今PRしているところ。それを受けて、委員の方々や民生委員、町内会の方々に情報をいただいている。報告を受けた場合は24時間以内に安全確認をすることになっているため、すぐ対応を行っている。いろいろ複雑な問題を抱えている場合が多いので簡単には解決できないものが多い。いろいろな社会資源を使って対応しているところ。お気づきの点があれば子ども課に連絡してほしい。

(村上課長) 本日いただいた意見を、関係部署に情報提供しながら取り組みを進めていきたい。

以上